

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 職務の理解	時間数 6時間(通学6時間、通信0時間)	授業担当者 窪木 守
<p>【授業の目的・ねらい】 ○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>1. 多様なサービスの理解 ○介護保険サービス(居宅、施設)、○介護保険外サービス</p> <p>2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談) ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</p> <p>【授業終了時の達成課題】 ○研修課程全体の構成と各研修科目の相互の関係性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率的・効果的に学習できるような素地が形成できる。 ○視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を。出来るかぎり具体的に理解できる。</p>		
<p>【使用テキスト】</p> <p>【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)</p>	<p>【評価の方法および基準】</p> <p>通学: 科目評価試験60点以上で合格</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護における尊厳の保持・自立支援	時間数 9時間(通学1.5時間、通信7.5時間)	授業担当者 佐藤 篤
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたって基本的視点及びやってはいけない行動例を理解できる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>1. 人権と尊厳を支える介護</p> <p>(1) 人権と尊厳の保持</p> <p>○個人としての尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシー</p> <p>(2) ICF</p> <p>○介護分野におけるICF</p> <p>(3) QOL</p> <p>○QOLの考え方、○生活の質</p> <p>(4) ノーマライゼーション</p> <p>○ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <p>○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の擁護者支援</p> <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活支援事業</p> <p>2. 自立に向けた介護</p> <p>(1) 自立支援</p> <p>○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性/個別ケア、○重度化防止</p> <p>(2) 介護予防</p> <p>○介護予防の考え方</p> <p>【授業終了時の達成課題】</p> <p>○介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れ概説できる。</p> <p>○虐待の定義、身体拘束、利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的な事項を列挙できる。</p>		
<p>【使用テキスト】</p> <p>【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)</p>	<p>【評価の方法および基準】</p> <p>通学: 科目評価試験60点以上で合格</p> <p>通信: 確認試験及びレポートによる評価60点以上で合格 (4月末日締切) (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本	時間数 6時間(通学3時間、通信3時間)	授業担当者 佐藤 篤
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解できる。</p> <p>○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 介護職の役割、専門性他職種との連携</p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解</p> <p>○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性</p> <p>○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○他職種から成るチーム</p> <p>(3) 介護に関わる職種</p> <p>○異なる専門性を持つ他職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者支える意味、○お互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担</p> <p>2. 介護職の職業倫理</p> <p>○専門職の倫理の意義、○介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重</p> <p>3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>(1) 介護における安全の確保</p> <p>○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード</p> <p>(2) 事故防止、安全対策</p> <p>○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告(家族・市町村への報告)、○情報の共有</p> <p>4. 介護職の安全</p> <p>○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い、うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護が目指す基本的なことは何かを概説でき、家族と専門職による介護の違い(専門性)について列挙できる。</p> <p>○介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性を列挙できる。</p> <p>○介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点を列挙できる。</p> <p>○生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。</p> <p>○介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方などについて留意点を列挙できる。</p>		
<p>[使用テキスト]</p> <p>【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)</p>	<p>[評価の方法および基準]</p> <p>通学: 科目評価試験60点以上で合格</p> <p>通信: 確認試験による評価60点以上で合格 (4月末日締切) (60点未満の者は、レポート提出を行う)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	時間数	授業担当者
介護・福祉サービスの理解との医療の連携	9時間(通学1.5時間、通信7.5時間)	佐々木 謙太郎、星 亜矢子
<p>[授業の目的・ねらい] ○介護保険制度や障がい福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的や、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要を列挙できるようになる。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>1. 介護保険制度</p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、 ○市域包括ケアシステムの推進</p> <p>(2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順</p> <p>(3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定</p> <p>2. 医療との連携とリハビリテーション ○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念</p> <p>3. 障がい福祉制度およびその他制度</p> <p>(1) 障がい福祉制度の理念 ○障がい福祉制度の理念</p> <p>(2) 障がい福祉制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○生活全体の支援の中で介護保険制度の位置付けを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ○介護保険制度や障がい福祉制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ○ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ○高齢障がい者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障がい福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的・内容について列挙できる。 ○医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。</p>		
<p>[使用テキスト]</p> <p>【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)</p>	<p>[評価の方法および基準]</p> <p>通学: 科目評価試験60点以上で合格 通信: 確認試験及びレポートによる評価60点以上で合格 (4月末日締切) (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護におけるコミュニケーション技術	時間数 6時間(通学3時間、通信3時間)	授業担当者 相楽 愛美
<p>【授業の目的・ねらい】 ○高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを意識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者としての最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解する。</p> <p>【授業の概要】 1. 介護におけるコミュニケーション [授業全体の内容の概要] ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答 (2)コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴 (3)利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の想いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難しない、 ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、 ○構音障がいに応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術</p> 2. 介護におけるチームコミュニケーション (1)記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、○利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する報告書、 ○5W1H (2)報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点 (3)コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、 ○ケアカンファレンスの重要性 <p>【授業終了時の達成課題】 ○加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ○高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。</p>		
【使用テキスト】 【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)	【評価の方法および基準】 通学: 科目評価試験60点以上で合格 通信: 確認試験による評価60点以上で合格 (5月末日締切) (60点未満の者は、レポート提出を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 老化の理解	時間数 6時間(通学3時間、通信3時間)	授業担当者 星 亜矢子
<p>[授業の目的・ねらい] ○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解できる。</p> <p>[授業の概要] 1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常 [授業全体の内容の概要] ○防衛反応(反射)の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、 ○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響</p> 2. 高齢者と健康 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <p>[授業終了時の達成課題] ○加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ○高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。</p>		
[使用テキスト] 【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)	[評価の方法および基準] 通学: 科目評価試験60点以上で合格 通信: 確認試験による評価60点以上で合格 (5月末日締切) (60点未満の者は、レポート提出を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解	時間数 6時間(通学3時間、通信3時間)	授業担当者 星 亜矢子、相楽 愛美
<p>[授業の目的・ねらい] ○介護において認知症を理解することの重要性に気づき、認知所の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解できる。</p> <p>[授業の概要] 1. 認知症を取り巻く状況 [授業全体の内容の概要] 2. 医療的側面から見た認知症の基礎と健康管理 ○認知症の概念、○認知症の原因疾患とその病態、○原因疾患別ケアのポイント、○健康管理、 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア、 ○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬 3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状(BPSD)、○不適切なケア、○生活環境での改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、 ○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考えて、 ○身体をとおしたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、 ○認知症の進行に合わせたケア 4. 家族への支援 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減(レスパイトケア)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○障がいの概念のICFについて概説でき、各障がいの内容・特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ○障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。</p>		
[使用テキスト] 【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)	[評価の方法および基準] 通学: 科目評価試験60点以上で合格 通信: 確認試験による評価60点以上で合格 (6月末日締切) (60点未満の者は、レポート提出を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障がいの理解	時間数 3時間(通学2時間、通信1時間)	授業担当者 星 亜矢子、相楽 愛美
<p>[授業の目的・ねらい] ○障がいの概念とICF、障がい福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる。</p> <p>[授業の概要] 1. 障がいの基礎的理解 [授業全体の内容の概要] ○ICFの分類と医学的分類、○ICFの考え方 (2)障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念</p> 2. 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1)身体障がい ○視覚障がい、○聴覚、平衡障がい、○音声・言語・咀嚼障がい、○肢体不自由、○内部障がい (2)知的障がい ○知的障がい (3)精神障がい(高次脳機能障がい・発達障がいを含む) ○統合失調症・気分(感情)障がい、依存症などの精神疾患、○高次脳機能障がい、 ○広汎性発達障がい・学習障がい・注意欠陥性多動性障がいなどの発達障がい (4)その他の心身の機能障がい 3. 家族の心理、かかわり支援の理解 ○家族への支援、○障がいの理解・障がいの受容支援、○介護負担の軽減 <p>[授業終了時の達成課題] ○障がいの概念とICFについて概説でき、各障がいの内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。</p>		
[使用テキスト] 【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)	[評価の方法および基準] 通学: 科目評価試験60点以上で合格 通信: 確認試験による評価60点以上で合格 (6月末日締切) (60点未満の者は、レポート提出を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみと生活支援技術	時間数 75時間(通学63時間、通信12時間)	授業担当者 窪木 守、佐々木 謙太郎、 相楽 愛美
------------------------------------	----------------------------	---------------------------------

[授業の目的・ねらい]

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

[授業の概要]

< I. 基本知識の学習 >

1. 介護の基本的な考え方
 - 理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)、○法的根拠に基づく介護
2. 介護に関するこころのしくみの基礎的知識
 - 学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、
 - 老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、
 - からだの状態がこころに与える影響
3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
 - 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、○ボディメカニクスの活用、
 - 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、
 - こころとからだを一体的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点

< II. 生活支援技術の学習 > ※技術演習:5~6割、講義4~5割

4. 生活と家事
 - 家事と生活の理解、○家事援助に関する基礎的知識と生活支援、○生活歴、○自立支援、
 - 予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観
5. 快適な居住環境整備と介護
 - 快適な居住環境に関する基礎知識、○高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法、○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与
6. 整容に関連したこころと体のしくみと自立に向けた介護
 - 整容に関する基礎知識、着脱、○身支度、○整容行動、○洗面の意義・効果
7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
 - 移動・移乗に関連する知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、○利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、○移動と社会参加の留意点と支援
 - 利用者と介助者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、
 - 重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原理、○移動介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)、○移動介助(車いす・歩行器・つえ等)、○褥瘡予防
8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
 - 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援
 - 食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、
 - 咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備(時間・場所等)、○食事に関連した福祉用具の活用と解除方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防
9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
 - 羞恥心遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、○全身の拭き方、身体の支え方)、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部洗浄(臥床状態での方法)、○足浴・手浴・洗髪
10. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

○排泄とは、○身体面(生理面)での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害、○排泄障がい日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ)

11. 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護

○安眠のための介護の工夫、○環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)、○安楽な姿勢・褥瘡予防

12. 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護

○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)、○臨終が近づいた時の徴候と介護、○介護従事者の基本的態度、○他職種間の情報共有の必要性

<Ⅲ. 生活支援技術演習>

13. 介護過程の基礎的理解

○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ

14. 総合生活支援技術演習

○事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1.5時間程度で実施)

[授業終了時の達成課題]

○主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度に応じた住宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。

○要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。

○利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。

○人の記憶や構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。

○靭帯の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。

○家事援助の機能と基本原則について列挙できる。

○装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

○体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やささまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

○食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

○入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

○排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

○睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

○ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

[使用テキスト]

【介護福祉士初任者研修テキスト】
第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版)
第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)

[評価の方法および基準]

通学: 科目評価試験及び実技試験それぞれ60点以上で合格
通信: 確認試験及びレポートによる評価60点以上で合格(6月末日締切)
(60点未満の者は再度、レポート提出を行う)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 振り返り	時間数 4時間(通学4時間、通信0時間)	授業担当者 佐藤 篤
<p>【授業の目的・ねらい】 ○研修全体をふり返り、研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成と学習課題の認識を図る。</p> <p>【授業の概要】 1. 振り返り ○研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に近いするための知識の重要性、リームアプローチの重要性等) 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ○継続的に学ぶべき事 ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所などにおける実例(Off-JT、OJT)を紹介</p> <p>【授業終了時の達成課題】 ○住宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習を行い、業務における基本的大との視点を持って介護を行える。 ○研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習などで表出・言語化し、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認できる。 ○修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、今後何を継続的に学習すべきか理解できる。 ○最新知識の付与と、次のステップへ向けての課題を認識できる。 ○介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例などについて、具体的なイメージを持てる。</p>		
<p style="text-align: center;">【使用テキスト】</p> <p>【介護福祉士初任者研修テキスト】 第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)</p>	<p style="text-align: center;">【評価の方法および基準】</p> <p>通学: 修了評価筆記試験60点以上で合格</p>	